# 教育学部芸術専修音楽分野カリキュラムマップ

| | |
|---|---|
| 養成人材 | 教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成 |
| 学位授与の方針 | ①専門的な深い知識の修得に関連する事柄<br>○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能<br>・教職に関する専門的な知識・技能<br>・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能<br>②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄<br>○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力<br>・日本国憲法に関する基本的な理解<br>・心身の健康に関する基本的な理解と態度<br>・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解<br>・英語を用いて意思を疎通させる能力<br>・情報リテラシーとプレゼンテーション能力<br>③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄<br>○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力<br>・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術<br>・教育実践を通した子供理解と実践的指導力<br>○教員に求められる人間性と社会性<br>・教員としての使命感や責任感、教育的愛情<br>・教員としての社会性や対人関係能力<br>・社会貢献への強い意欲<br>・学び続ける姿勢 |

| 年次 | 授業科目 | 到達目標 | 教育目標１：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。 | 教育目標２：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。 | 教育目標３：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ソルフェージュ | 小中高の教科書レベルの楽曲に対応できるよう、聴音、視奏、視唱、記譜等に慣れること。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 合唱演習Ａ | 豊かな合唱表現のための基礎的事項を身に付ける | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 合唱演習Ｂ | より進んだ合唱表現を学ぶ。小編成や指導法への理解も深める | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 声楽演習Ａ | 呼吸法、母音の発音、声区の融合などの発声も基礎を身に付ける | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 声楽演習Ｂ | 基礎事項を実際の楽曲の歌唱に活かす | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 声楽演習Ｃ(日本の伝統的な歌唱) | 日本にたくさんある伝統的な歌唱法の共通要素を研究し、西洋音楽歌唱法以外の指導法を身に付ける。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | ピアノ演習Ａ(伴奏を含む) | ・小学校における特別活動に関する基礎理論を学ぶ | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | ピアノ演習Ｂ(伴奏を含む) | ロマン派以降のピアノ作品を中心に、複雑な読譜に挑戦し、いっそう多彩な表現と技術の向上を目指す。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 木管楽器演習Ａ | フルート奏法の基礎を理解し、平易な楽曲を演奏できる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 木管楽器演習Ｂ | 中級程度のフルート奏法の習得し、平易なフルートの名曲が演奏できる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 合奏 | 合奏の意義を理解し、調和のとれた和音の響きやより高度な音楽的表現で質の高い合奏ができる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 器楽演習Ａ(日本の伝統的な楽器) | 和楽器（箏・三味線）奏法研究を通して、未経験者を初級レベルの演奏ができるような指導法を身に付ける。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 器楽演習Ｂ（金管楽器） | 金管楽器の特徴をつかみ、演奏ができることと共に、自分の呼吸によって音楽を表現することを理解すること。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 器楽演習Ｃ（打楽器） | 教育現場と演奏上の表現においての打楽器力を身につける。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 作曲Ⅰ(編曲法を含む) | 三和音を正しく用いることができる。２部形式の旋律を作曲し、適切な和声を用いて伴奏が書ける。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 西洋音楽史 | 西洋音楽の歴史を学ぶ | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 日本音楽史 | 日本音楽の歴史を学ぶ | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 音楽民族学 | 諸民族の音楽についての知識、理解を身に付ける | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 指揮法概説Ⅰ | 指揮法理論の基礎を理解し、平易な楽曲が指揮できる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 指揮法概説Ⅱ | 指揮法理論の応用を理解し合唱曲やオーケストラ曲が指揮できる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 音楽科教育研究 | 音楽教育学関係の文献を講読し自分の所見を含めて発表する。音楽科教育に関する研究分野について学ぶ。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 声楽演奏研究Ⅰ | 生理学的に無理のない発声で楽曲を歌う。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | ピアノ演奏研究Ⅰ | ピアノ独奏曲、ピアノ伴奏のレパートリーを拡大する。読譜力を身につけ、高度な技術と表現を目指す。 | ◎ | ◎ | ○ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 管楽器演奏研究Ⅰ | 管楽器の奏法を幅広く習得し、中級程度以上の楽曲が演奏できる・ | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 作曲学研究Ⅰ | 和声の能力を高め、卒業研究としての作曲に生かせるようにする。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 音楽教育学研究Ⅰ | 広く先行研究にあたりながら、文献探索の方法、データ資料の分析の仕方、実践記録の取り方などを学ぶ。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 特別研究Ⅰ | それぞれの演奏研究Ⅰ、音楽学研究Ⅰ、音楽教育学研究Ⅰ、作曲学研究１に相当する。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 声楽演奏研究Ⅱ | 生理学的に無理のない発声で楽曲を歌いこなす。合わせて歌詞の表現を工夫する。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | ピアノ演奏研究Ⅱ | それぞれの進路に必要な楽曲について万全な準備を行う。より高度な技術と音楽的な表現を目指す。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 管楽器演奏研究Ⅱ | より高度な管楽器の奏法の習得し、的確な演奏解釈に基づき上級以上の楽曲が演奏できる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 作曲学研究Ⅱ | 作曲の能力を高め、卒業研究としての作品を完成させる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 音楽教育学研究Ⅱ | 単行本、雑誌論文、専門事典などから各自でテーマを絞る。論文の様式に則った研究の成果をまとめる。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 特別研究Ⅱ | それぞれの演奏研究Ⅱ、音楽学研究Ⅱ、音楽教育学研究Ⅱ、作曲学研究Ⅱに相当する。 | ◎ | ◎ | ○ |

## 教育学部芸術専修図画工作・美術分野カリキュラムマップ

| | |
|---|---|
| 養成人材 | 教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成 |
| 学位授与の方針 | ①専門的な深い知識の修得に関連する事柄<br>○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能<br>・教職に関する専門的な知識・技能<br>・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能<br>②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄<br>○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力<br>・日本国憲法に関する基本的な理解<br>・心身の健康に関する基本的な理解と態度<br>・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解<br>・英語を用いて意思を疎通させる能力<br>・情報リテラシーとプレゼンテーション能力<br>③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄<br>○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力<br>・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術<br>・教育実践を通した子供理解と実践的指導力<br>○教員に求められる人間性と社会性<br>・教員としての使命感や責任感、教育的愛情<br>・教員としての社会性や対人関係能力<br>・社会貢献への強い意欲<br>・学び続ける姿勢 |

| 年次 | 授業科目 | 到達目標 | 教育目標１：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。 | 教育目標２：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。 | 教育目標３：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 絵画基礎実技Ⅰ(映像メディア表現を含む。) | 絵画の基礎の習得を目的とする。同時に、客観的な描写等の向上をはかりたい。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 彫刻基礎実技Ⅰ | 彫刻実技に関する基礎的な技能や考え方を修得することを到達目標とする。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | デザイン基礎実技Ⅰ(映像メディア表現を含む。) | デザインにおける基礎的な造形力および構成力の修得 | ◎ | ◎ | ○ |
| 1 | 工芸基礎実技Ⅰ | 動機・目的・方法・素材の共振の意味を理解する | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 絵画基礎実技Ⅱ | 油彩作品の表現技術の向上及び画面構成の力の獲得を目標とする。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 彫刻基礎実技Ⅱ | 彫刻基礎実技Ⅰ」で習得した彫刻表現に対する基礎的技能を活かしその習得を継続させながら、基礎から応用への橋渡しをする実習である。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | デザイン基礎実技Ⅱ(映像メディア表現を含む。) | 基本的なデザインコンセプトの構築の方法およびそれを実現する造形との関係性を理解する | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 工芸基礎実技Ⅱ | 表現としても工芸・伝統工芸・伝統的工芸の差異と共通点を理解する | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 美術史概論(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。) | 美術史と美意識の探求を目的とし、美術史の基礎理論と、重要語彙、様式について熟知する。 | ◎ | ◎ | ○ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 日本美術史 | 日本美術史と日本人の美意識の探求を目的とし、日本美術史の基礎理論と、重要語彙、様式について熟知する。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 造形芸術学概論 | 美術・アート・芸術という概念やカテゴリーについて、語源や歴史を遡り、また現代社会における概念の拡大や変容、周縁領域との連関をふまえて、広い視野からとらえ直すことを目標とする。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 美術理論Ａ | 美術、特に絵画及び彫刻について考える上での基礎的な事項、例えばそれらの歴史や概念あるいは理論等について習得し、美術教育について考えるための基盤とする。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 2 | 美術理論Ｂ | 工芸およびデザインに関する美意識および社会的価値を理解する | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 絵画研究Ａ | 「絵画基礎実技Ⅰ・Ⅱ」を通して獲得された絵画表現に対する基礎的技能と基礎的な知識を礎にして、本授業では、各学生が「自分は何を表現したいのか」という自己表現への気づきと自覚を促し、そのためには具体的にどのような方法や主題が相応しいのかを主体的に探ろうとする意識や姿勢を身に着けさせることを到達目標とする。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 絵画研究Ｂ | 「絵画研究A」では学生各自が自らの表現主題を探り表現の核に気づいて、それを他者に伝えるためにはどのような表現方法が相応しいのか、またどのようにプレゼンテーションするのがよいのか、1年間を通して体験的に学習した。そうした体験を経たうえで、もう一度自らの制作主題について前年から継続して制作を続けるとともに①、古今東西の様々な作家研究や制作研究を通して理論化すること②、そしてその理論を踏まえた上で、それを学校教育における図画工作科・美術科の教材や題材にどのように結びつけ具体化が可能かを考え実践できるようにすること③が、本授業「絵画研究」における具体的な到達目標である。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 彫刻研究Ａ | 彫刻制作にかかわる技法の中から特に「塑造」と「型取り」について体験的に学習し、美術科における彫刻領域の意義と可能性についての理解を深める。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 彫刻研究Ｂ | 彫刻表現における抽象的造形についての理解を深めるため、様々な素材での制作体験を通じて実践的に学修する。最終的に抽象彫刻にかかわる総合的な制作技能と鑑賞力を育む。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | デザイン研究Ａ(映像メディア表現を含む。) | デザイン制作を通してデザインの機能性と社会におけるはたらきを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | デザイン研究Ｂ(映像メディア表現を含む。) | 制作を通して、デザインの社会における機能性について理解する。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 工芸研究Ａ | 自らの工芸観の確認 | ◎ | ◎ | ○ |
| 3 | 工芸研究Ｂ | 自らの工芸観の確認 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 論文 | 設定した問題に対して，妥協なく，解決する能力を獲得する。 | ◎ | ◎ | ○ |
| 4 | 制作 | 自分なりの表現を為し得ているか。 | ◎ | ◎ | ○ |